



治水システム理解の深化と気候変動適応

1. 洪水防災分野における気候変動適応を図る上で治水システムの理解深化が必要不可欠

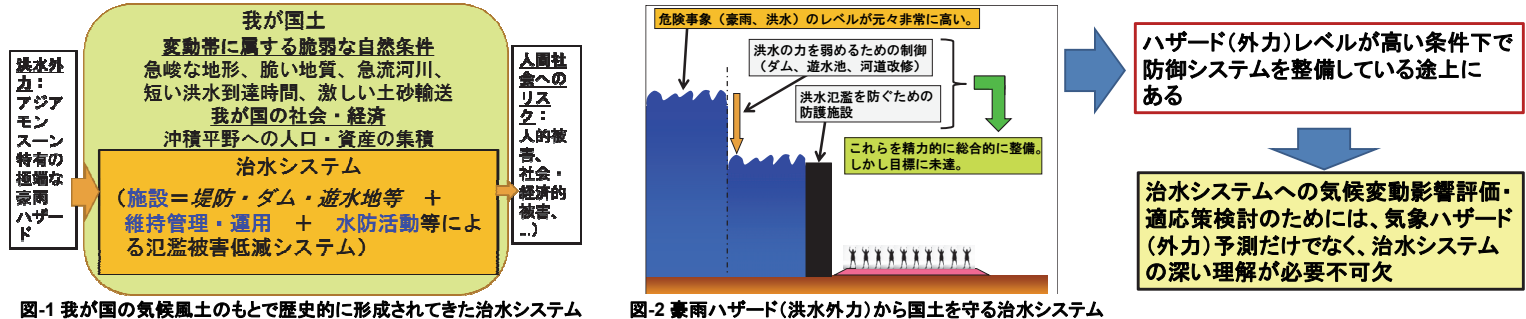
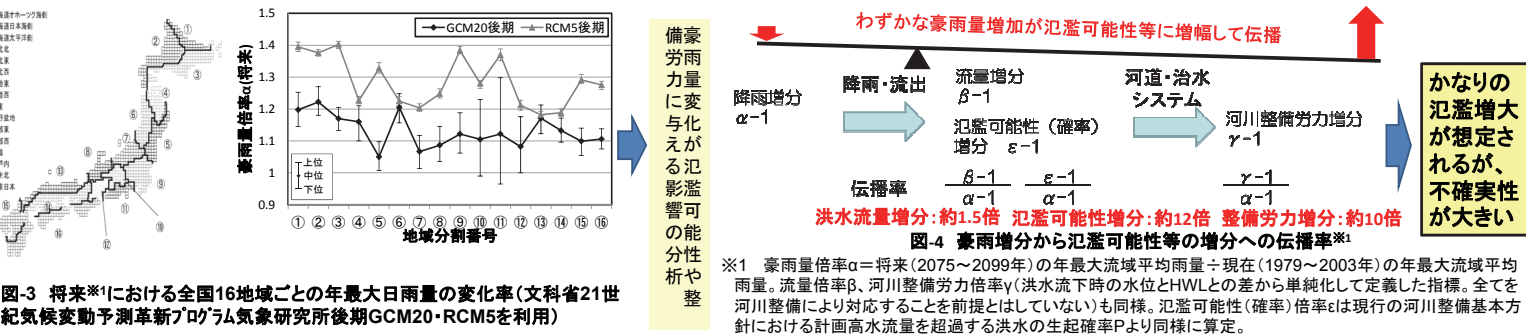


図-1 我が国の気候風土のもとで歴史的に形成されてきた治水システム

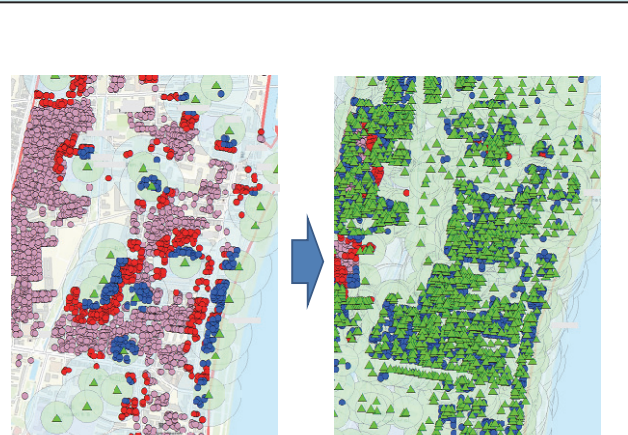
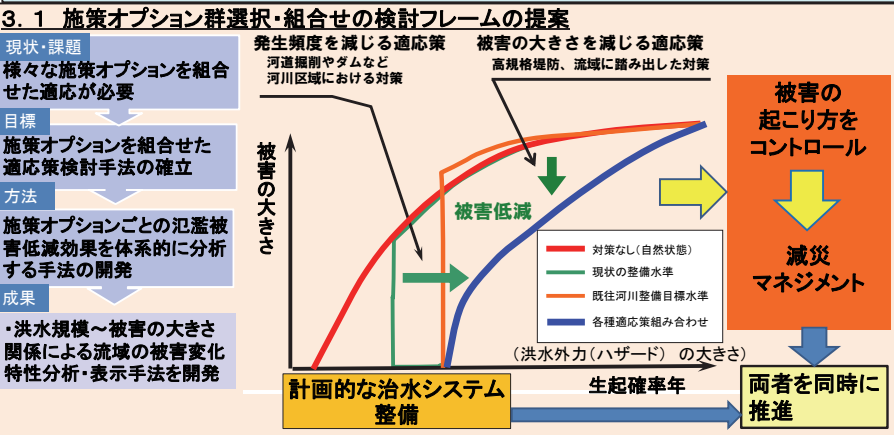
図-2 豪雨ハザード(洪水外力)から国土を守る治水システム

2. 治水システムへの気候変動影響はどの程度深刻なのか



※1 豪雨量倍率 α =将来(2075~2099年)の年最大流域平均雨量÷現在(1979~2003年)の年最大流域平均雨量。流量倍率 β 、河川整備余力倍率 γ (洪水流下時の水位とHWLとの差から単純化して定義した指標。全てを河川整備により対応することを前提とはしていない)も同様。氾濫可能性(確率)倍率 ε は現行の河川整備基本方針における計画高水流量を超過する洪水の生起確率 P より同様に算定。

3. どのような施策メニューを拡充し組合せていくべきか



3.2 施策オプション拡充例: 避難実態を踏まえた人的被害低減対策

